新刊紹介

『北海道医学教育史攷』

著者　小竹　英夫

本誌No.787（平成5年5月1日号）から、No.1014（同15年3月16日号）に連載された、「北海道の医学教育」の題名を改めて一本としたもの。B5版、2段組、450ページの大冊である。

松前藩時代から、現代に至る道内医師養成機関の通史である。あとがきによると、著者82歳から93歳に至る間の仕事というから、著者の老齢にめげない気力と体力に驚く。労作というべきであろう。

エルドリッジに教えを受けた石崎鼎吾を祖父とする石崎　達氏からの貴重な多くの資料など、今後これ以上のものは望めないであろうし、通辯をつとめた章　克己の履歴も今回初めて明らかにされたものと思うが、18歳くらいで通辯に採用され、エルドリッジにその技倆を絶賛された語学力など、どこで身につけたものであろう。本多公敏についても、同様のことがいえる。

札幌県や道の費用支辨で、道外の医学校への生徒派遣なども眼新らしい事実である。

北大医学部創設期の教授列伝など、親しく接した著者ならではの記述で、もうその頃の学生での生き残りで健在なのは、著者ぐらいではあるまいか。

現在までの医学教育の歴史のみならず、今後の大学院大学の構想にも触れ、将来の展望についても書かれている。

会員各位も、一読されたら（尤もこの大冊を一読するのは容易ではない）、懐旧の念ばかりでなく、今後の医学教育について何らかの感想を抱かれるものと思われる。

目　次

これまでの道内の医学教育（研修）機関
⑴松前藩立済衆館
⑵箱館医学所兼病院
⑶開拓使医学校（札幌仮医学所）
医学校の学科、学費の内訳
開拓使医学校か札幌仮医学所か
医学校廃校となる
⑷函館病院による医育
（ⅰ）開拓使医学校
エルドリッジの経歴
通訳・章克己の履歴
米人医師・ハーツホーン
医学校生徒・石崎鼎吾のこと
函館医学校関係者のその後
（ⅱ）官立函館病院医学教授（附属医学校）
（ⅲ）函館病院仮医学所
（ⅳ）函館病院医学所
（ⅴ）函館病院附属医学講習所
⑸県（道）費による他府県医学校へ依託しての医師養成
⑹道内の官民による医育機関設立の動き
（ⅰ）北海道庁による医学校設立計画
（ⅱ）札幌農学校による医学科設立計画
（ⅲ）尾形碧の道立医学専門学校設立建議
（ⅳ）国会議員による官立医専設立建議案
（ⅴ）道会及び札幌区会及び道内有志者の北海道帝国大学設立請願書と医育機関設立要望
⑺北海道帝国大学医学部（北大医学部）
医学部附属医院の開院・医学部学則の制定
創設期の教授群像
敗戦から新制大学へ
講座と歴代担任教授
インターン制度と医師国家試験
⑻北海道帝国大学医学部臨時附属医学専門部
事変の長期化と軍部の医師増産要求
臨時医専と陸軍
戦争末期に軍の要望した医学教育
樺太庁立医学講習所
医学講習所から庁立、更に官立医専へ
敗戦後の樺太医専
⑼北海道庁立女子医学専門学校
道立女子医専の学則と学科目
戦後医育制度の混乱
⑽道立札幌医科大学
札幌医大の授業時間割
札幌医大の医学教育改革
札幌医大教官氏名
札幌医大の学園紛争
⑾国立旭川医科大学
旭川医大創設準備室の活動
旭川医科大学学則
歴代学長及び教授

■発行者　野沢信義
■発行所　㈲北海道出版企画センター
平成15年11月20日発行
B5版、477頁、定価4,500（税別）
〒001-0018　札幌市北区北18条西6丁目20
電話　011-737-1755
FAX　011-737-4007
振替　02790-6-16677
URL http : /www4.ocn.ne.jp/~hppc/
E-mail hppc186@rose.ocn.ne.jp